

TOEIC スコアと職務遂行能力の関係の研究
-外国語習熟度の自己評価-

伊東 田恵
川口 恵子
太田 理津子

目次

1. はじめに	1
2. 先行研究	2
2.1 自己評価の妥当性の検証研究	2
2.2 自己評価に影響を与える要因	3
2.3 自己評価における日本人の心理的傾向に関する関連研究	5
2.4 Test of English for International Communication (TOEIC) の スコアの解釈に関する研究	5
3. 調査方法	6
3.1 被験者	6
3.2 材料	6
3.3 調査手順	7
4. 結果	8
4.1 TOEIC スコアおよび自己評価の平均値と標準偏差	8
4.2 スキル別、シチュエーション別の自己評価結果	9
4.3 TOEIC スコアと自己評価スコアの相関係数	10
5. 考察	13
6. チェックリストの作成	14
6.1 3点尺度	14
6.2 チェックリスト活用法	15
7. チェックリスト使用上の留意点と今後の課題	15
8. 結論	16
参考文献	17
付録 1: 自己評価アンケート (英語)	19
付録 2: 自己評価アンケート (日本語)	25
付録 3: アンケート質問項目	30
付録 4: 平均値、標準偏差、TOEIC スコアと自己評価の相関	31
付録 5: 職務と習熟度に関するリスト	34

1. はじめに

1979年に導入されて以来、TOEIC®テストは、日本における英語習熟度を測定する標準テストとして、急速に普及した。公開テスト（SP）や、所属する企業や大学などを通じての団体特別受験制度（IPテスト）を利用してTOEICを受験した人の数は、2002年度だけでも130万人にのぼる（国際ビジネスコミュニケーション協会[IIBC], 2003）。特に、国際化に直面して、英語が世界市場で競争力を維持する上で重要な要因であるという認識が広がったため、TOEICを導入する団体は増加している。2001年にIIBCが実施した調査によると、これらの団体は、英語研修プログラムの効果測定や、新入社員の英語力の測定、または海外勤務や昇進などの人事決定に際しての基準設定などの目的で、TOEICを利用している。たとえば、日本IBM株式会社では、課長相当職への昇進や短期海外出張にはTOEICテストで600点を、部長相当職への昇進や中長期にわたる海外出張には730点を取得する必要がある。富士通株式会社では、新入社員に対して、入社1年以内に全員が600点を取得するように強く奨励してきた（IIBC, 2000）。

しかし、TOEICに対する関心の急激な高まりの一方で、TOEICスコアの解釈のあり方は常に問題とされてきた。つまり、「TOEICスコアは何を意味するのか」という問題である。受験者は、自分のスコアを見て、それをどう解釈すべきなのか。あるいは、TOEICで600点を取得したある従業員が英語でどのような業務を遂行できるかを、企業は予測できるのだろうか。

TOEICテストは、職場における英語習熟度の測定を目的とする集団基準準拠テストとして、Educational Testing Service（ETS）によって開発された。200問の多肢選択式の質問で構成されるこのテストは、2つのセクション（リスニング・セクション、リーディング・セクション）に分かれており、いずれも100の設問で構成される。TOEICは、リスニングやリーディングのスキルを測定するだけでなく、間接的にスピーキングやライティングのスキルをも測定する。テスト結果は、リスニング5点～495点、リーディング5点～495点、トータル10点～990点のスコアで表示され、受験者に報告される（The Chauncey Group International, 1999, 2002）。

言語習熟度を測定する集団基準準拠テストには、避けて通れない問題がある。すなわち、この種のテストでは、特定の状況における受験者の実際の言語運用能力に関する情報はほとんど得られないのである（Wilson, 1989）。というのは、集団基準準拠テストにおけるパーセンタイル順位は、他の受験者の成績に対する、各受験者の相対的な順位を示すにすぎないからである。つまり、ある受験者が600点を取得し、その受験者のTOEICにおけるパーセンタイル順位が60%だとすると、これは、この受験者が、同じテストを受けた受験者全体の60%よりも上位に位置していることを示すにすぎない。そうした状況の中で、スコアの意味するものをより深く理解するためには、多くの企業は必然的に、従業員の英語能力を評価する独自の基準を確立しなければならなかった。一方、受験者は、勤務先の企業が設定した目標スコアを獲得することで、あるいはTOEIC運営委員会が提供するProficiency Scale（TOEICスコアとコミュニケーション能力レベルとの相関表）を参照することで、自分の英語習熟度を確認してきた。

しかし、これらの基準はいずれも、特定のスコア域に属する人が、職場で英語を使用してどのような業務が遂行できるかを具体的に示していない。先に述べたような目的でスコアが利用され

ていることを考えると、TOEIC スコアと職務に関連する英語運用能力を関連付ける必要性がある。しかし、実際には、TOEIC スコアの解釈の研究はほとんど行われてこなかった。こうした現状を踏まえ、本研究では、テストユーザーがより実際的な方法で、TOEIC スコアを解釈できるようなチェックリストを開発することを、第一義的な目的とした。まず、仕事に関連した項目からなる自己評価アンケートを実施し、TOEIC スコアと自己評価による英語習熟度との関係を検証した。次に、調査結果に基づいて、特定の TOEIC スコアを持つ人が、業務という枠組みの中で、英語を使用して、どのような仕事が、どの程度遂行できるか、を示すチェックリストを作成した。

2. 先行研究

2.1. 自己評価の妥当性の検証研究

第二言語／外国語の学習・評価の分野において、自己評価 (self-assessment) を使用するという概念は、1970 年代、学習者の自律性を重視する流れの中で最初に現われた (Oscarson, 1989, 1997)。その後、研究者らは、第二言語／外国語の習熟度を自ら評価する手段として自己評価を利用する論理的根拠やその方法について論じ始めた。その後 20 年にわたり、研究は主として、方法と材料の開発、手法の妥当性の確立を中心に進められてきた。本研究は、個々人の自己評価能力を前提とすることから、これまでの自己評価に関する検証研究とその他の関連研究の知見について概観する。

自己評価の妥当性は、ある能力について、自己評価により推定したデータとより客観的なテストにより測定したデータを相関させて得られる同時的妥当性の統計値によって調査されてきている。Blanche and Merino (1989) は、1970 年代後半および 1980 年代に行われた外国語の技能に関する自己評価研究 16 を調査し、次のように報告している。「ほとんどの学生の自己評価の精度は、評価対象となった言語技能や用いられた材料によって、ばらつきがあったが、これらの推定評価値は、おおむね『良い』または『たいへん良い』といえる」(p.315)。この Blanche and Merino の結論を、Ross (1998) はメタ分析的に立証している。

第二言語教育における自己評価の利用で注目すべき例に、オタワ大学が実施したクラス分けテストとしての自己評価がある。この自己評価テストは、LeBlanc and Painchaud (1985) が行った、自己評価による能力測定の妥当性に関する一連の実験の一部である。この実験では、第二言語プログラムを履修した新学部学生に、習熟度を測る標準テストを実施する前に、自己評価アンケートを使用して目標言語における受容的スキル (receptive skills) を評価させた。学生の経験に合わせてアンケートの内容を修正した後、2つの評価方法の間に高い相関性 (0.80, 0.82) が認められた。

他の例としては、英語を母国語としない話者の、言語コミュニケーション能力の自己評価について考察した Bachman and Palmer (1989) の研究がある。この検証研究では、多特性・多方法的分析 (multitrait-multimethod design) と確認的因子分析 (confirmatory factor analysis) を用い、三つの言語特性 (文法能力、語用論的[pragmatic]能力、社会言語学的[sociolinguistic]能力) が調査された。調査結果は、「能力」に関する質問 (いわゆる「～できる (can-do)」形式の質問) よりも、被験者が難しいと感じることを問う「困難な点 (difficulty) に関する質問の方が、より有効であ

ったとしている。Bachman and Palmer は、「自己評価は、言語コミュニケーション能力を測定する、信頼性、妥当性のある方法であり得る」と結論づけている (p.22)。

2.2 自己評価に影響を与える要因

自己評価の妥当性を調査する研究 (他の検証研究については、Oscarson, 1997 を参照のこと) では、自己評価の正確さに影響を及ぼすさまざまな要因が指摘されてきた。自己評価が将来的に有効な手法であることが裏付けられ、研究者らは自己評価の正確さに影響を及ぼす可能性のある要因に注目し始めた。これらの要因には、計測する手段に関わるものと、評価を行う人に関わるものがある。

Heilenman (1990) は反応効果 (response effect)、すなわち「質問の内容以外の要因に反応する傾向」を調査した (p.175)。この Heilenman の研究では 65 問の「can-do」(肯定的な言葉で書かれた) 項目と「困難な点」(否定的な言葉で書かれた) 項目からなる自己評価アンケートを使用し、学生が「困難な点」項目に対し、そうではないと回答をすることの方が、「can-do」項目に対し、そうだと回答するよりも難しいと感じるらしいことを明らかにした。さらに、学習経験の乏しい学習者は、そうではない学習者と比較して、黙認、肯定、過大評価をする傾向が強いことが観察された。Heilenman は、なぜこうした反応効果が起こるのかについて、情報処理の観点から洞察力に富む説明を与えている。すなわち、自己評価アンケートに回答する行為は、複雑な認知活動を行うことであり、回答者は、アンケートの言語情報を処理するだけでなく、適切なスキーマを活性化し、適切な回答を導くために関連のある情報を検索し、取り出すことが求められる。したがって、アンケートに答えるすべての過程において、「学習者にかなりの負担」が課せられることになり (p.190)、特に、学習経験に乏しい学習者にとっては負担が大きくなり、反応効果を誘発する可能性がある。自己申告という方法には多かれ少なかれ、反応効果が見られるという証拠を得て、Heilenman は回答の誤りが起こる可能性を最小限にする方法を論じた。

MacIntyre, Noels and Clement (1997) は、「言語不安」(language anxiety) 一言語使用や言語学習にまつわる不安一から生ずる、第二言語習熟度の自己評価に見られるバイアス (偏り) について考察した。彼らは、この変数が、リーディング以外のスピーキング、リスニング、ライティングタスクにおいて、自分で考えている能力および実際の能力の両方と負の相関関係にあることを明らかにした。言語活動に不安を感じる学生が自分の能力を過小評価する傾向にある一方で、リラックスしている学生は過大評価する傾向にあった。この研究は、不安のある学生は、自尊心が傷つく可能性のあるタスクを失敗することを恐れて、自尊心を守るために能力を過小評価するのではないかと示唆している。

Ross (1998) は、被験者がある言語タスクを直接的に経験したことがある場合、その経験がタスクの自己評価点にどのような影響を与えるのかを考察した。Ross は過去の研究で、自己評価と基準変数の相関値に大きなばらつきがあったという事実を踏まえて、自己評価項目の文言のあいまいさといった評価手段に関わる要因とは別に、ばらつきの原因は自己評価の時点における学習者の言語経験にある、と推測した。この推測は、リーディングスキルの自己評価と基準変数との

相関値が4つのスキルの中で最も高い、という過去の研究結果に基づいている。過去の研究結果を分析する中で Ross は、「外国語として自国で言語を学習する場合には、書き言葉にまずふれ、それから、リスニングやスピーキングの練習経験を積む」(p.6) ので、学習者はリーディングの能力をより正確に自己評価できるのではないかと示唆した。ある日本企業の言語研修プログラムで実施された妥当性の検証研究において、Ross は学習者が2つの異なるタイプの自己評価項目にどのような自己評価点をつけるかを調査した。1つはクラスで学習したこととまったく同じ内容を取り扱った項目で、もう1つは同じ内容を取り扱ってはいるが、クラスで学習したこととは違う形で提示された項目であった。その結果、「基準変数が自己評価テストで機能的 (can-do) スキルの到達度を説明するものである場合に、学習者の自己評価はより正確になる」という証拠を得た (p.16)。

これまでにふれた自己評価点に影響を与える要因は、複雑に関連しあっている可能性がある。すなわち、複数の要因が自己評価の過程で存在している可能性があるということである。たとえば、言語不安は、言語経験や言語タスクの性質と関係があると考えられる。ある言語タスクを十分に行った経験があれば、それらが公の場で話すといった自尊心を脅かす可能性のあるタスクであっても、学習者は不安を感じず、自己評価できるであろう。これまでのところ、第二言語習熟度の自己評価の過程でどのような複数の要因が関連し合って評価に影響を与えるかを検証した実証的研究は行われていない。

以下は過去の研究知見のまとめである。

1. 第二言語／外国語の習熟度の自己評価は、ある条件のもとでは高い信頼性を得ることができ。したがって、自己評価は、実施目的によっては好ましい結果が得られる手法である。
2. 自己評価の正確さはさまざまな要因の影響を受け得る。これらの要因は、習熟度の過大評価や過小評価につながる。また、これらの要因は、自己評価テストに関わるものと、評価する人に関わるものがある。
3. 自己評価項目の記述があいまいな場合、または、自己評価の尺度が明確に定義されていない場合は、被験者の解釈が変わり、自己評価の信頼性が確保できなくなる。
4. 学習者は自分が「～ができる」という能力よりも、「～がうまくできない、困難である」という不得手な面をよく認識している。したがって、困難な点に関する質問（または否定的な表現の質問）は、正確な自己評価につながる可能性がある。しかし、こうした質問は複雑なため、誤った答えを導く可能性もある。
5. 第二言語能力の自己評価では、言語使用や言語学習にまつわる不安があると、バイアスがかかり、自己評価が正確でなくなる可能性がある。
6. 経験要因は、自己評価の正確さに影響を及ぼす可能性がある。
 - 1) 自己評価の質問が学習者の経験に関連している場合、自己評価はより正確となる。
 - 2) 正確さの点で、経験に乏しい学習者の自己評価は、経験豊かな学習者の自己評価に劣る。これは、後者が豊富な言語経験に照らしてタスク遂行能力を評価できることによる。
 - 3) 符号化スキル（スピーキング、ライティング）よりも解読スキル（リーディング、リス

ニング) の自己評価の方が基準変数との相関が高い傾向がある。なぜならば、学習の場において、あるいは、実際の生活において、十分に経験したことのある言語スキルの方が学習者は正確に評価できるからである。

2.3 自己評価における日本人の心理的傾向に関する関連研究

第二言語／外国語の習熟度の自己評価に関する研究においては、自己というものに対する概念が文化によって異なるので、態度、心理的傾向、また、さまざまな反応効果というものを考慮しなければならない (Oscarson, 1997)。たとえば、Tannenbaum, Rosenfeld, and Breyer (1997) は、日本人は自分自身の能力を過小評価し、「非常によくできる」という最も高い評価尺度を選択しない可能性があるのではないかと指摘している。調査した範囲では、第二言語の学習・評価の分野で、文化の違いという観点から、反応効果を考察した自己評価研究はない。しかし、社会心理学では、近年、文化による自己評価やセルフエンハンスメント (self-enhancement) の違いを考察する研究が幅広く行われている。日本人は、自分についての否定的な情報に接するとより自己批判的になる傾向があるのに対し、北米の人々は、自己の全般的な評価を維持・強調する傾向があることが示唆されている (Heine, Kitayama, & Lehman, 2003; Kitayama, Markus, Matsumoto, & Norasakkunkit, 1997)。Yoshida, Kajo and Kaku (Kurman, 2001 引用) は、日本人に見られる自分を控えめに呈示する傾向は、初等教育を通じて内在化されることを実証的に示した。本研究の被験者については、こうした文化に根ざした心理的傾向がある可能性があるが、すべての被験者が日本人であるため、このような文化的要因が自己評価と基準変数との相関に影響を与えることはないと考える。

2.4 Test of English for International Communication (TOEIC) のスコアの解釈に関する研究

実際の生活における会話能力の観点から TOEIC の得点を解釈するために、Wilson (1989) は Language Proficiency Interview (LPI) (言語能力面接試験) のスコアと TOEIC のリスニングスコア (TOEIC-LC)、リーディングスコア (TOEIC-R)、トータルスコア (TOEIC-Total) との相関性をそれぞれ調査した。LPI は、米国国務省の附属機関である Foreign Service Institute (FSI) が開発した手法を用いて、面と向かった対話での英語運用能力を評価する面接試験である。TOEIC の得点と LPI の評価からなるデータサンプル 393 が、まず日本 (285)、ついで、フランス (56)、メキシコ (42)、サウジアラビア (10) で収集された。被験者の国籍や言語が異なるデータサンプルであるにもかかわらず、TOEIC スコア (LC、R、Total) は、おおむね LPI 評価と強い相関性を示し、LC と LPI との相関値が最も高かった (代表的な相関値は 0.75 前後)。Wilson は次のように示唆している。「TOEIC の得点と LPI の評価スケールが伝える [英語能力に関する] 情報は、さらに、第二言語として英語を使用、または学習する人の職場における英語使用能力と (数値的・統計的に、そして／また、現場的・直感的に) 関連付けられる必要がある」(p.62)。副次的研究の中で、Wilson は、スピーキング能力の自己評価点を LPI スケールの代わりに用い研究する可能性を検討し、自己評価という方法に妥当性があるという実証的裏付けを得ている。

TOEIC Can-Do Guide (1998) の基となった Tannenbaum et al.の研究は、TOEIC のスコアを、日

常生活および仕事に関連する一般的な状況において実際に必要とされるコミュニケーション能力の点から、解釈した。75 の Can-Do 項目で構成される自己評価アンケートを使用し、日本企業の従業員 8,601 人に能力 (performance) を自己評価させた。(4 技能とコミュニケーションの) 自己評価点と TOEIC の 3 種類の得点との相関値は、0.58 から 0.69 であり、自己評価得点と TOEIC のスコアの間に比較的強い相関性があることが示された。また、被験者の英語のインストラクターに被験者の能力 (performance) の評価を依頼した結果、自己評価と第三者評価の間には、やや高い、または高い水準の一致が認められた。この結果を基に、Tannenbaum et al.は、TOEIC のユーザーを対象とした実用的な行動 (behavioral) のチェックリストを作成した。このチェックリストを用いて、TOEIC の受験者は、自分の得点と照らし合わせ、日常生活において、また、基本的な職務において、英語を使って自分が何をおそらくできるのかがわかるのである。研究の目的と全体的構想は、本研究と非常に似ている。この 2 つの研究が異なる点は、本研究が TOEIC の得点をさまざまな仕事の状況内での、職務に関連する (基本的なタスクから専門的なタスクまでの) 一連のタスクに関連付けようとしたのに対し、Tannenbaum et al.は、TOEIC の得点をより一般的な職務に関連付けた点にある。

3. 調査方法

3.1 被験者

本研究の被験者は、企業に勤める日本人 8,386 人である。参加者の大多数は男性であった (92.7%)。また、被験者の 91%は 22 歳から 49 歳で、平均年齢は 34.8 歳であった (標準偏差 8.67)。被験者の多く (68.7%) は電気関連の仕事に従事しており、また 66.3%が従業員数 10,000 人以上の企業に所属していた。回答者の 74%に 5 年以上の職務経験があり、約半数の被験者 (48.8%) は英語を使用する必要のある仕事に従事した経験があった。しかし、大多数の被験者 (89.1%) は海外駐在の経験がなく、海外出張の経験のない被験者も多かった (59.7%)。海外生活の経験を問う質問に回答した被験者は 7,538 人で、その大部分 (91.4%) は海外に居住した経験がなかった。学歴に関する情報を提供した被験者は 3,448 人で、そのうち大卒者は 53.7%、大学院卒 26.3%、高卒者は 8.8% であった。

3.2 材料

本研究の目的に合わせて、65 のタスク項目 (Can-Do statements) からなる自己評価アンケートが作成された。アンケートの作成にあたっては、職場における人々の英語運用能力を正確に測定するために、次の方法を採用した。まず、いわゆる「ビジネス英語」を取り扱ったさまざまなビジネス書の内容を分析した。さらに、作成過程では、Tannenbaum et al. (1997) による Can-do チェックリストも参考にしたが、よりビジネス志向のアンケートを開発するために、「日常生活上」よりも「職務上」の英語運用能力を問う質問項目を多く含めることを心がけた。そしてそれを基に、アンケートの回答者に意味のある、また馴染みがあると思われる、基本的あるいは専門的な業務のチェックリストを日本語で作成した。次に、既存の Can-Do チェックリストは 75 のタスク

項目を5つのスキル域に分類していたが、本研究では、タスクを7つのシチュエーション域に分類した(A. 来客対応、B. 日常業務関連、C. 電話で、D. 発注・支払い・クレーム、E. 商談・プレゼンテーション、F. 自分の専門業務に関連した内容の会議・講演で、G. 出張・訪問・その他)。さらに、各項目の終わりにチェック欄を設けて、回答者が経験したことのあるタスクや現在行っているタスクにしるしをつけられるようにした。そして、被験者が各タスクをどの程度英語で遂行できるのかを明らかにするために、1~5までの5段階尺度を設定した。1は「全くできない」、2は「ほんの少ししかできない」、3は「難しいがなんとかできる」、4は「ほぼできる」、5は「問題なくできる」である。次に、異なる分野で働く人達数名に、実際にアンケートに回答してもらいながら、チェックリストと評価尺度に関して修正すべき箇所を挙げてもらった。得られたフィードバックを考慮して、あいまいな表現を書き換え、新しく職務上のタスクを付け加え、また、不自然な状況を削除した。たとえば、シチュエーション E 「商談・プレゼンテーション」には、「相手が 1-3 人の場合」という条件を付け加えた。これは、プレゼンテーション等の参加者の数がタスクの難易度を左右する要因になり得るとの指摘に基づいている。また、タスクをより具体的にするために、いくつかの項目には「辞書を使わず」または「ほとんど辞書を使わず」という表現を付け加えた。その後、600点前後(550~650)の TOEIC スコアを取得した 52 人の会社員に対して、改訂したアンケートを予備調査として実施した。そのスコア域を選んだのは、ユーザー、主に企業にとって意味のあるチェックリストを作成するためである。なぜなら、多くの企業は、人事上重要な決定を行う際の基準を 600 点前後に設定しているからである。そこで、52 人の参加者には、まずアンケートに回答してもらい、その後アンケートをより良くするための意見を求めた。集まった回答や意見を参考にして、最終的に 65 のタスク項目 (Can-Do statements) を考案した。各 Can-Do statement は、職場で、または、仕事に関連した社交的な場で必要なタスクを表している。それらは同時に、5 つのスキル (リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング、コミュニケーション) の 1 つに分類することができる。たとえば、人の話を聞いて返事をする、といった 2 つ以上のスキルを必要とするタスクは、コミュニケーションに分類した。自己評価アンケートの最終版には英語版と日本語版があるが (付録 1 と 2 を参照)、被験者の母国語を使用した自己評価アンケートを使用するとより正確な結果が得られる、という Oscarson (1997) の示唆を考慮して、本研究の被験者には日本語版を実施した。最後に、このアンケートの α 信頼性係数を調査した結果、係数の値が高いことが明らかになった ($\alpha=0.993$)。

3.3 調査手順

2001 年から 2002 年に IP テストを受験した会社従業員のうち、データの提供に同意した 25 の企業の従業員 8,985 人に対して、IIBC の監督のもとで (日本語版の) アンケートを実施した。しかし、実際に統計分析の対象となったのは 8,386 人のデータである。これは次の 2 つの理由による。

(1) すべての項目に回答しなかった被験者のデータを除外した。(2) 極端なケースのデータを除外した。たとえば、最も低いスコア域に属しているにもかかわらず、すべての項目に 5 と回答した人、または 900 点より高いスコアを取得しているのに、すべてのタスクに 1 または 2 と回答し

た被験者は、極端なケースに該当する。アンケートは基本的に2つのパートで構成される。最初のセクションでは、アンケートへの回答は研究目的のみに使用されること、TOEIC スコアや英語習熟度の評価に影響を及ぼさないことを約束する旨、被験者に示された。事前にこうしたことを周知することは、回答者の不安の緩和とアンケートに対するコミットメントの最大化につながり、その結果、より信頼性の高いデータが得られると考えられたからである。また、被験者には、性別、年齢、学歴、職歴、英語の使用状況など、個人情報提供を求めた(付録3参照)。次のセクション、すなわち、アンケートの本体では、65のCan-Do statementsを読んで、1点から5点で自分の英語能力を自己評価してもらった。また、Can-Do statements に記述されているタスクを行った経験の有無について、チェック欄にしるしをつけて回答してもらった。

4. 結果

4.1 TOEIC スコアおよび自己評価の平均値と標準偏差

データの分析には、SPSS-X Ver.11 を使用した。表1は、TOEIC テストの結果の記述統計である。被験者数が最も多いのは300から399のスコア域で、受験者全体の21.2%にあたる1,728人の受験者がこのスコア域に属していた(図1)。実際は、受験者の80.4%が10点(最低点)から600点の範囲に分布していた。表2は、自己評価アンケートの結果の記述統計である。アンケートは65の質問で構成され、各質問の配点は1点から5点である。したがって、アンケートの最低点は65点、最高点は325点となる。平均は127.2点で、1問あたりの平均は1.96点であった。平均が130点未満、すなわち1問あたりの平均が2未満の被験者が全体の60.6%を、平均が185点未満、すなわち1問あたりの平均が3未満の被験者が全体の87.1%を占めた(図2)。

表1 TOEIC テストスコアの記述統計

	被験者数	最低点	最高点	平均	中央値	標準偏差	分散
トータルスコア	8386	10	965	440.2	415	178.1	31722.2
リスニングスコア	8386	0	495	246.5	230	87.6	7669.2
リーディングスコア	8386	5	480	193.7	185	97.4	9477.4

表2 自己評価スコアの記述統計

	被験者数	最低点	最高点	平均	中央値	標準偏差	分散
自己評価スコア	8386	65	325	127.2	113	56.9	3240.2

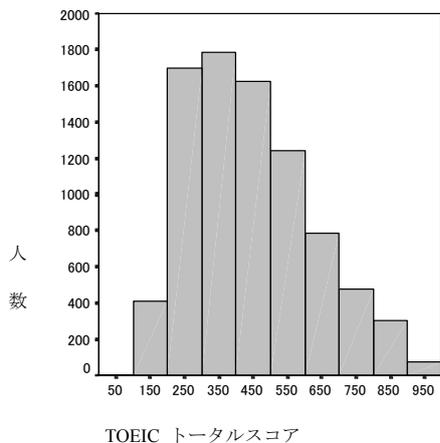


図1 TOEIC スコアの分布

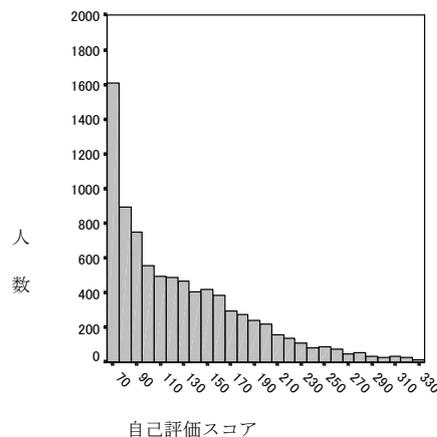


図2 自己評価スコアの分布

4.2 スキル別、シチュエーション別の自己評価結果

表3はスキル別とシチュエーション別の自己評価結果である。各スキルや各シチュエーションの項目数もこの表に示してある。解読スキル（リスニング、リーディング）の平均値は、符号化スキル（スピーキング、ライティング）の平均値を上回った。また、最も低かったのは、コミュニケーションを伴う業務の平均値であった。これらの結果は、複数の研究結果（Ross, 1998; Tannenbaum et al., 1997）と一致している。「A-来客対応」、「B-日常業務関連」、「C-電話で」、「G-出張・訪問・その他」という4つのシチュエーションの平均値は、「D-発注・支払い・クレーム」、「E-商談・プレゼンテーション[相手が1-3人の場合]」、「F-自分の専門業務に関連した内容の会議・講演で」といったシチュエーションの平均値よりも比較的高いことが明らかになった。また、「G-出張・訪問・その他」の平均値は最も高い2.12を示した。一方、「D-発注・支払い・クレーム」の平均値は最も低い1.31であった。

図3と図4では、TOEICのスコアを100点で区切り、各スコア域におけるスキル別・シチュエーション別の平均値を示した。解読スキルの平均値は、すべてのスコア域で符号化スキルの平均値を上回った。一方、コミュニケーションスキルの平均値は、すべてのスコア域にわたって最も低いことがわかった。解読スキル、符号化スキル、コミュニケーションスキルの間の差は、中間スコア域で比較的是っきりしている。低いスコア域（295未満）と高いスコア域（800を上回る）における差は、中間スコア域と比較すると小さかった。また、シチュエーションの平均値については、「D」以外の6つのシチュエーションの平均値が近かった。図4のグラフは、TOEICスコアが高ければ高いほど、職務遂行能力の自己評価の平均値が高くなることを示している。

各項目の平均値は付録4にまとめてある。最も高い平均値は2.86（A-2）と2.53（B-8）で、最も低い平均値は1.50（E-6）と1.55（C-6）であった。

表3 項目数、平均値、標準偏差（自己評価）

スケール	項目数	平均値	標準偏差
リスニング	10	2.15	.94
スピーキング	18	1.91	.90
リーディング	12	2.16	.92
ライティング	12	1.79	.93
コミュニケーション	13	1.70	.89
A（来客対応）	9	2.01	.91
B（日常業務関連）	20	2.03	.90
C（電話で）	8	1.98	.98
D（発注・支払い・クレーム）	4	1.31	.95
E（商談・プレゼンテーション[相手が 1-3 人の場合]）	6	1.71	.90
F（自分の専門業務に関連した内容の会議・講演で）	7	1.74	.90
G（出張・訪問・その他）	11	2.12	.96

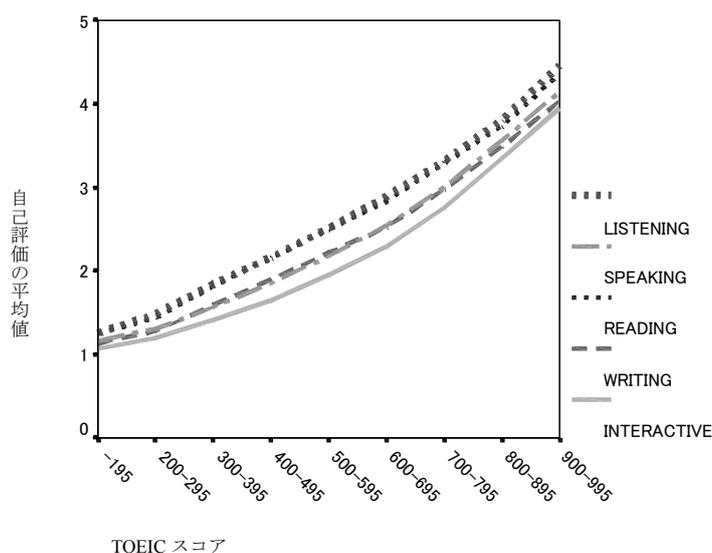


図3 自己評価の平均値の推移
(スキル別)

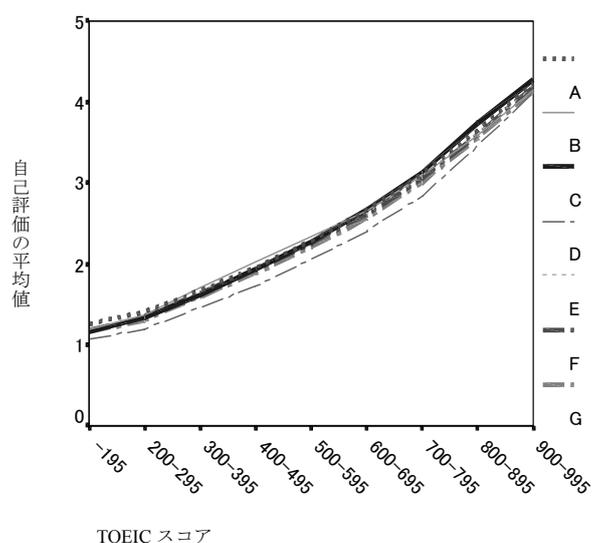


図4 自己評価の平均値の推移
(シチュエーション別)

4.3 TOEIC スコアと自己評価スコアの相関係数

表4は、TOEIC スコア、スキル、シチュエーション間の相関を表す。自己評価のトータルスコア（x）を10を底とする対数（ $x' = \log_{10}x$ ）に変換して統計解析を行い、分布の歪みを調整した。

表4 TOEIC スコアと自己評価スコアの相関値

	TOEIC トータル スコア	TOEIC リスニング スコア	TOEIC リーディング スコア
自己評価スコア	.71	.69	.68
スキル別			
リスニング	.69	.68	.65
スピーキング	.70	.68	.66
リーディング	.71	.67	.70
ライティング	.67	.64	.66
コミュニケーション	.68	.66	.64
シチュエーション別			
A (来客対応)	.68	.67	.64
B (日常業務関連)	.70	.66	.69
C (電話で)	.67	.66	.63
D (発注・支払い・クレーム)	.65	.62	.62
E (商談・プレゼンテーション[相手が 1-3 人の場合])	.65	.63	.62
F (自分の専門業務に関連した内容の会議・講演で)	.66	.64	.63
G (出張・訪問・その他)	.66	.65	.63

すべての結果は、1%水準で有意である。

この結果、自己評価と TOEIC スコアの間には、0.62～0.71 という高い相関が認められた。TOEIC のトータルスコアと自己評価スコアとの相関で最も高かったのは、リーディングスキルの自己評価であり、最も低かったのは、シチュエーション D とシチュエーション E であった。TOEIC のリスニングスコアとリスニングおよびスピーキングの自己評価の間には高い相関が認められ、また同様に、TOEIC のリーディングスコアとリーディングの自己評価の間にも、高い相関があった。すべての相関は、1%水準で有意であった。これらの結果は、TOEIC スコアと自己評価の間に明らかな関連性があることを示すとともに、外国語としての英語習熟度を測定する手法としての自己評価の妥当性を裏付ける証拠となっている。

表5と表6とに示したように、自己評価内の相関(0.80～0.96)は、TOEIC スコアと自己評価との相関(0.62～0.71)を上回った。図5は、TOEIC トータルスコアと自己評価のトータルスコアの相関を示している。TOEIC トータルスコアと自己評価の間にはきわめて高い相関が認められる($r=0.71, R^2=0.51$)。即ち、自己評価の分散の約50%は、TOEIC トータルスコアによって説明できるということである。

表5 スキル別相関マトリックス (自己評価)

	SAL	SAS	SAR	SAW	SAI
自己評価					
リスニング (SAL)	1				
スピーキング (SAS)	.93	1			
リーディング (SAR)	.91	.89	1		
ライティング (SAW)	.87	.91	.91	1	
コミュニケーション (SAI)	.90	.96	.86	.91	1

すべての結果は、1%水準で有意である。

表6 シチュエーション別相関マトリックス (自己評価)

	A	B	C	D	E	F	G
自己評価							
A (来客対応)	1						
B (日常業務関連)	.87	1					
C (電話で)	.90	.87	1				
D (発注・支払い・クレーム)	.83	.88	.87	1			
E (商談・プレゼンテーション[相手が1-3人の場合])	.84	.87	.85	.88	1		
F (自分の専門業務に関連した内容の会議・講演で)	.85	.88	.86	.87	.93	1	
G (出張・訪問・その他)	.85	.85	.87	.81	.80	.83	1

すべての結果は、1%水準で有意である。

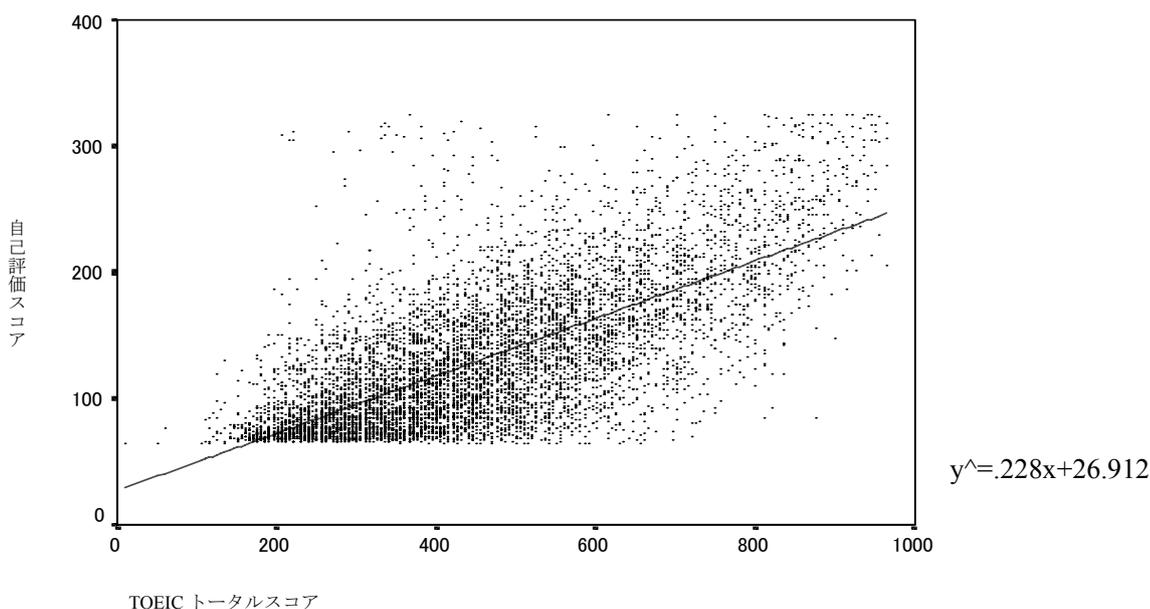


図5 TOEIC トータルスコアと自己評価トータルスコアの相関性

5. 考察

先に提示したデータは、おおむね TOEIC スコアと自己評価スコアにかなり高い相関があることを示す証拠となっている。TOEIC のトータルスコアと自己評価のトータルスコアには、非常に高い相関が認められた (0.71)。TOEIC の各セクションと自己評価アンケートの各スキルまたは各シチュエーションとの相関も、有意であった。これらの研究結果は、関連する過去の研究結果 (Tannenbaum et al., 1997) に一致しているが、注目すべき点が 2 つある。1 点目は、本研究における TOEIC のトータルスコアの平均値が 440 (標準偏差 178) なのに対して、Tannenbaum et al. の平均値は 462 (標準偏差 175) であり、5 つのスキルにおける自己評価の平均値が Tannenbaum et al. ほど高くないことである (本研究では 1.70~2.16、Tannenbaum et al. では 2.34~2.87)。本研究の自己評価スコアが低い理由としては、自己評価アンケートに、上級レベルの被験者でも遂行が難しいと感じるような専門的なタスクがより多く含まれていることに起因すると考えられる。注目すべき 2 点目は、TOEIC スコアと 5 つのスキルの自己評価点との間に、より高い相関が見出されたことである (本研究では 0.64~0.71、Tannenbaum et al. では 0.58~0.69)。これは、より幅広い難易度のタスクを取り上げた本研究の自己評価項目が、あらゆる習熟度の被験者に適していたために、被験者の英語力をより正確に測定できたことを示しているのではないだろうか。つまり、これらの結果は、この自己評価アンケートが、ビジネスの場における第二言語能力を測定する、信頼できるツールとなり得ることを示唆している。

データ全体にわたって、自己評価の結果に一貫したパターンが認められた。すなわち 平均値が最も高く、TOEIC のトータルスコアと最も高い相関を示したのは、リーディングスキルであった (平均値 2.16; 相関値 0.71)。しかし、次の 2 つの理由を考えれば、これは予側されたことである。

まず、リーディングスキルの自己評価スコアの高さと相関値の高さは、本研究の被験者の大多数が、読解力を最も重視する日本の教育制度のもとで英語を学習したことに起因すると考えられる。自己評価研究のまとめの中で、Ross (1998) は次のように述べている。「リーディングに関するこのわずかな優位性 [自己評価とリーディングスキルの間に高い相関性が認められること] には、被験者の第二言語での読解経験の量が関係していると考えられる (p.6)。Ross の研究は日本人被験者のみを対象としたものではない。しかし、今回の結果は、本研究の被験者のリーディングの経験の長さが、リーディングスキルの自己評価点と相関値を高めた可能性を示していると思われる。

考えられるもう 1 つの理由は、他のスキルとは異なりリーディングスキルは、人のアイデンティティや自尊心を脅かす恐れが少ない、ということである。MacIntyre et al. (1997) は、スピーキングとライティングは他者とのコミュニケーションを伴うが、この「公的なこと」が不安感をもたらす可能性があるとした。一方で、リーディングは「最も私的な」行為であり、与えられた文章を理解するまで、何度でも読み返すことができる。この「面子を保つことができるプロセス」の影響で、本研究のリーディングスキルの自己評価が高くなった可能性がある (p.280)。

本研究では、スキルの中で、コミュニケーションスキルが自己評価点、相関値ともに最も低い

というもう 1 つのパターンが認められた。コミュニケーションに属する活動に 2 つ以上のスキルが求められることを考えれば、この結果は当然といえるかもしれない。たとえば、他者とのコミュニケーションでは、英語で言われたことを理解すると同時に（リスニング）、対話者のニーズに合ったメッセージを考え、時間に迫られる中で実際に英語でそれを伝えなければならない（スピーキング）。コミュニケーションスキルの自己評価点が低い背景には、こうしたプロセスの複雑さがあると考えられる。また、対人関係を伴うコミュニケーションは、スキルの中でも最も自己（または自尊心）を脅かすものと捉えられた可能性がある。

データをさらに分析した結果、7 つのシチュエーションのうち、シチュエーション G「出張・訪問・その他」の自己評価点が最も高く、シチュエーション D「発注・支払い・クレーム」の自己評価点が最も低いことがわかった。被験者が与えられたタスクにどの程度通じているかが、これらの評価に影響していると思われる。たとえば、シチュエーション G の中のほとんどの項目は、「列車の時刻表を見る、レストランのメニューを見る、入国管理官からの質問を理解する」といったものであり、これらはその目的にかかわらず、出国時や海外に滞在するとき一般的に必要なタスクである。つまり、被験者はこれらのタスクを遂行した経験がある可能性が高いため、こうしたタスクをやや容易と感じた可能性がある。対照的に、シチュエーション D は、特定の立場にある人々だけに求められる専門的な知識やスキルが必要なタスクを網羅している（例：D1-ある企業に電話して、特定の商品の在庫の有無を尋ねる、見積もりの送付を依頼する、特定の商品を発注する、D2-ある企業に電話して違う製品が納品されたこと、製品が破損していたこと、支払いが済んでいないことについて苦情を述べる）。被験者がさほど経験のないタスクでは、自己評価が低くなった可能性がある。また、シチュエーション G のすべてのタスクが受身のスキルであったのに対し、シチュエーション D のタスクは能動的であったことが、自己評価の差の背景にあると考えられる。

6. チェックリストの作成

6.1 3点尺度

本研究の目的は、ある TOEIC スコアを取得した人が、ビジネスの場で英語でどのような業務を遂行できるかを推定することにある。TOEIC のテストスコアと、自己評価アンケートの業務項目のスコアの間に関連性があることが確認されたため、TOEIC トータルスコアと英語で遂行する業務を関連付けるチェックリストの作成を行った。このチェックリストは、65 のタスクを特定のスコア域に属する被験者の自己評価の平均に基づいて難易度別に分類し、まとめたものである。

このチェックリストをユーザー向けの実践的ガイドにするため、Heilenman (1990) の方法にしたがって、5 点尺度の自己評価を 3 点尺度に変換した。変換前の 1 と 2 は 1 に、3 はそのまま 3、4 と 5 は 5 とした。次に、自己評価項目の平均が 1 のときは「できない」、2 のときは「難しいがなんとかできる」、3 のときは「できる」と解釈することとした。1 から 2.33 のスコアは 1、2.34 から 3.66 のスコアは 2、3.67 から 5 のスコアは 3 をそれぞれ配点とした。チェックリストは付録 5 に載せてある。このチェックリストから企業は、目的の職務に必要なスキルがあると思われる

従業員を、TOEIC スコアから判別することが可能となる。

3 点尺度のチェックリスト（付録 5）より、500～595 と 600～695 という 2 つのスコア域の自己評価結果を比較してみる。このリストを見ると、500～595 のスコアを持つ人は、65 のタスクのうち 13 の業務を遂行できると考えられることがわかる。これとは対照的に、600～695 のスコアを持つ人々は、さまざまなシチュエーションにおいて 35 の業務を遂行することが期待できる。つまり、600～695 のスコアを取得した人々は、500～595 のスコアを取得した人々の約 3 倍の種類の業務を英語で遂行できるということである。実際に、この 35 項目は、リストに含まれるすべてのタスクの 53.8%を占める。リストから得られたこうした情報により、600 点を超える TOEIC スコアを取得した人は、英語で職務をある程度遂行できると考えられる。一方、500～595 のスコアを取得した人が英語で職務を遂行するためには、シチュエーション A、C、D のいくつかの発信のためのスキルを習得する訓練が必要であることがわかる。このように、このチェックリストは、特定のスコアを持つ人が 65 の業務を英語でどの程度できるかを示している。

6.2 チェックリスト活用法

次に、前述したチェックリストを実際にどう利用したらよいのか、いくつかの例を挙げて説明する。具体的なタスクを TOEIC スコア域に結びつけることは、さまざまな理由で TOEIC を使用する企業のニーズにかなうと考えられる。第一に、このチェックリストがあれば、雇用、昇進、選抜に際して、企業はより正確な決断を下すことができる。たとえば、TOEIC スコア 700 点を持つ人が外資系企業の受付係に応募してきた場合、この人はその職に適していると言えるであろう。というのも、チェックリスト（700～795 点域）より、この候補者が、英語研修をほとんど受けることなく、受付係に求められるシチュエーション A-1、A-2、およびシチュエーション C1 から C5 のような基本的な業務（例：訪問者の名前や訪問の目的を理解し、担当者に伝言する）を遂行できることが推測できるからである。また、このリストを踏まえて、特定の職業に求められる標準スコアを設定することもできる。さらに、このチェックリストは、従業員の英語力を特定の職種に必要な水準に引き上げるために、どのような業務に焦点を合わせて英語研修を行うべきか、明確な判断材料を提供することが可能である。

本研究における第一の目的は、企業のニーズに応えることであるが、このチェックリストは教育機関にとっても有用である。TOEIC を活用する企業が増える中で、TOEIC 準備コースをカリキュラムに組み入れる大学は増加している。このチェックリストを使用すれば、大学の TOEIC カリキュラムが、実際の職場環境で求められる英語力を持つ学生の育成に本当に有効かどうかを確認することができる。

7. チェックリスト使用上の留意点と今後の課題

本研究の問題点や今後の課題をいくつかここで述べておきたい。1 つは、被験者の性別や職業に偏りが見られることである。被験者の圧倒的多数を男性が占め（92.7%）、電気関係の仕事に従事している被験者が全体の 68.7%にのぼったことは、すでに述べた通りである。65 項目の作成に

あたっては、仕事のさまざまな側面を反映すべく留意したが、別のテストユーザー群にチェックリストを適用する場合には注意が必要である。

2 つ目は、被験者の特定の英語力の測定に自己評価アンケートを使用したため、必然的に信頼性の問題が出てきたことである。先に提示した通り、Heilenman (1990) は、言語習熟度の自己評価では、低いレベルの学生は能力を過大評価する傾向があること、一方で上級レベルの学生は能力を過小評価する傾向があることを明らかにした。「調査方法」のセクションで説明した通り、分析にあたっては極端なケースを除外したが、実際には、TOEIC で 925 点を取得した人が簡単に達成できると考えられるタスクに 2 と回答したケースや、TOEIC で 350 点を取得した人がすべての項目に 4 か 5 と回答したケースが含まれていた。

一方で、「自己批判的」と「謙虚さ」という日本人の 2 つの特性から、全体的な結果が過小評価に偏った可能性も否定できない。社会の調和を重視する文化では、人々は自己批判的な傾向、すなわち与えられたコンテクストにおいて、自分に求められている役割の基準を満たそうとするために自己の問題点を認識する傾向を持つ可能性が高いだけでなく (Heine et al., 2001)、謙虚な傾向、すなわち人前で自分の能力を控えめに述べる傾向を示す可能性も高い (Cialdini, Wosinka, Dabul, Whestone-Dion, & Heszen; Kurman, 2001 引用)。アンケートの回答に見られる日本人の自己批判的傾向については、多くの研究が実証している (Heine et al., 2001; Kitayama et al., 1997)。また、Heine, Takata and Lehman (2000) は、人前での控えめな自己呈示傾向が見られるため、「無記名のアンケートとはいえ、個人的な考えを [表現する]」のは、日本人には難しいかもしれないと唆している (p.72)。したがって、本研究における被験者の多くが、実際にはアンケートで申告した以上にうまくタスクを遂行できる可能性を排除できない。

別の問題点は、項目の妥当性に検討の余地がある、ということである。自己評価アンケートの内容の妥当性を確立するには、65 項目の Can-Do statements のすべてが、測定すべき対象（そのタスクの英語運用能力）のみを測定しなければならない。しかし、たとえば A-8 の「ある日本語の表現の意味を説明する、または日本の習慣・文化を説明する」は、そのタスクを遂行する上で必要な言語習熟度だけでなく、日本の習慣と文化に関する知識も評価することになるため、妥当とは言えない。このケースのように、最も高いスコア域で、評価点が 3 に達しなかった項目については、再調査が必要である。

自己評価研究に特有のこうした問題の影響を最小限にするために、Heilenman は研究の目的を参加者にはっきり説明すること、また、アンケートで用いる項目には被験者に関わりのある具体的なシチュエーションを含めることを提案している。自己評価アンケートの開発にあたってはこれらに留意したが、英語の言語習熟度を測定するさらなる客観的な方法と、アンケートに回答した被験者から収集したプロトコルデータを使用すれば、信頼性と妥当性はさらに向上したはずである。

8. 結論

先に述べた問題点はあるが、あるスコア域に属する人々が遂行できる業務を特定し、TOEIC ス

コアの解釈をより明確にした点で、本研究は意義深いと言えよう。本研究は、まずはじめに、TOEIC スコアと自己評価による英語運用能力の関係を検証した。研究の結果、TOEIC のトータルスコアと自己評価のトータルスコアとの間には高い相関 (0.71) が、また自己評価スコアと 5 つの各スキルおよび 7 つの各シチュエーションとの間にも、それぞれ高い相関が認められた。また、TOEIC の各セクションと自己評価の各スキルと各シチュエーションの間には、おおむね、強い相関が認められた。この結果を基に、研究の第二段階として、ユーザーが TOEIC スコアをより意味のある方法で解釈できるようなチェックリストの開発を目指した。そして、スコア域ごとに、難易度によって等級付けした 65 のタスクからなるチェックリストを作成した。このチェックリストは、ある TOEIC スコアを取得した人が、どのような業務を、どの程度、英語で遂行できるか予測する際の明確な判断材料になることが期待される。

今回の調査は、TOEIC と自己評価との関係を検証する研究の第一段階にすぎない。したがって、いくつかの方向に発展可能である。まず、本研究が示したスコアの解釈が、多くの、またはほとんどの TOEIC テストユーザーに適用可能であるか否かについては、今後の研究課題である。また、多くの企業が 600 点を重要な人事決定の基準に設定していることを考慮して、特定のスコア域を抽出し (例：600 点前後)、その特性を明らかにしていきたい。さらには、本研究で収集したデータを利用して、自己評価スコアに対する経験要因の影響を考察することも興味深い。この新しい分野には研究すべき課題が多く残されている。

参考文献

- Bachman, L.F., & Palmer, A.S. (1989). The construct validation of self-ratings of communicative language ability. *Language Testing*, 6, 14-29.
- Blanche, P., & Merino, B.J. (1989). Self-assessment of foreign-language skills: Implications for teachers and researchers. *Language Learning*, 39, 313-340.
- Chauncey Group International. (1998). *TOEIC can-do guide: Linking TOEIC scores to activities performed using English*. Princeton, NJ: Author.
- Chauncey Group International. (1999). *The TOEIC User Guide*. Retrieved December 5, 2002, from http://www.toEIC.com/2-3-1_informational.html
- Chauncey Group International. (2002). *TOEIC Examinee Handbook*. Retrieved December 5, 2002, from http://www.toEIC.com/2-3-1_informational.html
- Heilenman, L.K. (1990). Self-assessment of second language ability: The role of response effects. *Language Testing*, 7, 174-201.
- Heine, S., Kitayama, S., & Lehman, D. (2001). Cultural differences in self-evaluation. *Journal of Cross-Cultural Psychology*, 32(4), 434-443.
- Heine, S., Takata, T., & Lehman, D. (2000). Beyond self-presentation: Evidence for self-criticism among Japanese. *Personality and Social Psychology Bulletin*, 26(1), 71-78.

- Institute for International Business Communication (IIBC). (2000). *TOEIC Seminar Report (81st)*. Tokyo: Author.
- Institute for International Business Communication. (2001). *Dai juuikkai TOEIC katsuyo jittai hokoku* [TOEIC Practical Use Report]. Tokyo: Author.
- Institute for International Business Communication. (2003). *About TOEIC*. Retrieved September 20, 2003, from <http://www.toeic.or.jp/about/main.html>
- Kitayama, S., Markus, H., Matsumoto, H., & Norasakkunkit, V. (1997). Individual and collective processes in the construction of the self: Self-enhancement in the United States and self-criticism in Japan. *Journal of Personality and Social Psychology*, 72(6), 1245-1267.
- Kurman, J. (2001). Self-enhancement: Is it restricted to individualistic cultures? *Personality and Social Psychology Bulletin*, 27(12), 1705-1716.
- LeBlanc, R., & Painchaud, G. (1985). Self-assessment as a second language placement instrument. *TESOL Quarterly*, 19, 673-687.
- MacIntyre, P.D., Noels, K.A., & Clement, R. (1997). Biases in self-ratings of second language proficiency: The role of language anxiety. *Language Learning*, 47, 265-287.
- Oscarson, M. (1989). Self-assessment of language proficiency: Rational and applications. *Language Testing*, 6, 1-13.
- Oscarson, M. (1997). Self-assessment of foreign and second language proficiency. *Language Testing and Assessment*, 7, 175-187.
- Ross, S. (1998). Self-assessment in second language testing: A meta-analysis of experiential factors. *Language Testing*, 15, 1-20.
- Tannenbaum R.J., Rosenfeld, M., & Breyer, F.J. (1997). *Linking TOEIC scores to self-assessments of English-language abilities: A study of score interpretation*. Unpublished manuscript.
- Wilson, K.M. (1989). *Enhancing the interpretation of a norm-referenced second-language test through criterion referencing: A research assessment of experience in the TOEIC testing context* (TOEIC Research Report No.1). Princeton, NJ: Educational Testing Service.

付録 1: 自己評価アンケート (英語)

Check a box next to the statement if you <u>have done/ are currently doing</u> the activity. Whether you <u>have experience or not</u> , circle one number that is most true for you.	Have done	Difficulty level				
		Not at all	With a great deal of difficulty	With some difficulty	With very little difficulty	Easily

A. Meeting a guest: In English I can,

	Not at all	With a great deal of difficulty	With some difficulty	With very little difficulty	Easily
<input type="checkbox"/> 1. understand a person's name given and the reason of his/her visit and tell the message to a person in charge	1	2	3	4	5
<input type="checkbox"/> 2. use appropriate greeting expressions and introduce myself	1	2	3	4	5
<input type="checkbox"/> 3. talk about current political/economic events that I know about	1	2	3	4	5
<input type="checkbox"/> 4. describe my career and/or my present job responsibilities	1	2	3	4	5
<input type="checkbox"/> 5. show a guest around my office (e.g. where the restroom is)	1	2	3	4	5
<input type="checkbox"/> 6. meet a guest at the airport and take him/her to my company, talking with him/her about topics of general interests	1	2	3	4	5
<input type="checkbox"/> 7. understand and satisfy a guest's requests (e.g. hotel reservation/flight confirmation/sightseeing)	1	2	3	4	5
<input type="checkbox"/> 8. explain the meanings of some Japanese expressions or describe some Japanese customs/culture	1	2	3	4	5
<input type="checkbox"/> 9. give a short (a few minutes) speech at a welcome/farewell party of fifteen people or so without any preparation	1	2	3	4	5

Meeting a guest

B. Doing a routine task: In English, I can

	Not at all	With a great deal of difficulty	With some difficulty	With very little difficulty	Easily
<input type="checkbox"/> 1. write a memorandum or send an e-mail confirming some information related to my routine job	1	2	3	4	5
<input type="checkbox"/> 2. read an English manual about office equipment	1	2	3	4	5
<input type="checkbox"/> 3. read documents in my field with no use or only infrequent use of a dictionary	1	2	3	4	5

Routine task

Check a box next to the statement if you have done/ are currently doing the activity. Whether you have experience or not, circle one number that is most true for you.	Have done	Difficulty level				
		Not at all	With a great deal of difficulty	With some difficulty	With very little difficulty	Easily
4. read and understand an inter-office memo with no use or only infrequent use of a dictionary (e.g. announcement of a meeting)	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
5. read and understand a contract with a client for supplying products from my company, with no use or only infrequent use of a dictionary	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
6. tell a foreign colleague or newly employed person how to perform a routine task	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
7. search and collect some English materials necessary for my work by the Internet	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
8. a) organize collected English materials and summarize them in <u>Japanese</u> b) organize collected English materials and summarize them in <u>English</u>	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
9. understand a foreign co-worker talking about a routine task	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
10. discuss the improvement of customer service/ product quality with my boss/co-worker	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
11. write a letter of thanks to a client (with a dictionary)	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
12. read and understand a letter of thanks from a client (with a dictionary)	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
13. write a letter to a potential client introducing and selling the services and products of my company (with a dictionary)	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
14. write a report explaining the progress being made on a current project (with a dictionary)	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
15. write a plan or proposal related to my work (with a dictionary)	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
16. write an application to participate in an international trade fair (with a dictionary)	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5

Doing a routine task

	Check a box next to the statement if you have <u>done</u> / are currently <u>doing</u> the activity. <u>Whether you have experience or not</u> , circle one number that is most true for you.	Have done	Difficulty level				
			Not at all	With a great deal of difficulty	With some difficulty	With very little difficulty	Easily
Routine task	17. send an e-mail or write a letter to the public organization requesting necessary information (with a dictionary)	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
	18. write directions/specifications describing the services/products of my company (with a dictionary)	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
	19. conduct an interview with an applicant for a job in my area of expertise asking about his/her qualifications/career	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
C. Making/Receiving a call: In English, I can		<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
Making / Receiving a call	1. a) understand a person's name given/request made over the telephone and connect him/her to a person in charge b) tell my name and the reason I called and ask to connect me to a person in charge	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
	2. a) take a message for my colleague over the phone when he/she is not at his/her desk b) leave a message for a person and ask his/her secretary to have him/her call me back	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
	3. make/change/cancel an appointment to see a person	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
	4. give directions on how to get to the company office	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
	5. answer inquiries about my office's business hours or products/services of my company	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
	6. make an appointment with a potential client (total stranger) to sell my company's products/services	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5

Check a box next to the statement if you have <u>done/</u> are currently <u>doing</u> the activity. <u>Whether you have experience or not</u> , circle one number that is most true for you.	Have done	Difficulty level				
		Not at all	With a great deal of difficulty	With some difficulty	With very little difficulty	Easily

D. Placing orders, making payments, making complaints: In English, I can

Orders, payments, complaints

- | | | | | | | |
|---|--------------------------|---|---|---|---|---|
| 1. a) <u>telephone</u> a company to ask if a certain item is in stock, to ask to send an estimate, or to place an order of a certain item | <input type="checkbox"/> | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| b) write a <u>letter</u> or send an <u>e-mail</u> to a company to ask if a certain item is in stock, to ask to send an estimate, or to place an order of a certain item | <input type="checkbox"/> | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2. a) <u>telephone</u> a company to make a complaint about a wrong product delivered, a broken product, or nonpayment | <input type="checkbox"/> | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| b) write a <u>letter</u> or send an <u>e-mail</u> to a company to make a complaint about a wrong product delivered, a broken product, or nonpayment | <input type="checkbox"/> | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

E. In business talks/business presentations (the number of participants is 1-3): In English, I can

Business talks, presentations

- | | | | | | | |
|---|--------------------------|---|---|---|---|---|
| 1. briefly explain about my company by looking at some data (e.g. how and when the company started, what is the main business it does, how many profits it makes, how much capital and how many employees it has) | <input type="checkbox"/> | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2. sell my company's products/services comparing them with other companies' products in terms of quality, efficiency and prices, using prepared materials | <input type="checkbox"/> | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3. give a prepared 20-30 minute presentation about a new project or a new product | <input type="checkbox"/> | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4. read and understand handouts for a business presentation with only infrequent use of a dictionary | <input type="checkbox"/> | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5. ask questions about unclear or problematic points about the presentation during the meeting/presentation | <input type="checkbox"/> | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6. can negotiate prices of a product (e.g. explain how a price has been set, negotiate for a price reduction, or discuss a method of payment) | <input type="checkbox"/> | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

Check a box next to the statement if you have done/ are currently doing the activity. Whether you have experience or not, circle one number that is most true for you.	Have done	Difficulty level				
		Not at all	With a great deal of difficulty	With some difficulty	With very little difficulty	Easily
F. Attending a meeting or conference related to my job/my field of specialty: In English I can						
1. understand ongoing discussion over an issue related to my job or my field of specialty	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
2. orally present my view that I have prepared in advance	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
3. ask or answer questions about an issue being discussed	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
4. actively participate in the discussion	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
5. point out problematic points in reacting to someone's opinion and argue against them	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
6. write a report summarizing the main points discussed in the meeting	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
7. read and roughly understand a presentation/lecture handout with only infrequent use of a dictionary	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
G. Visiting, going on a business trip: In English I can						
1. understand questions made by an immigration officer at an airport asking how long and where I will stay and what is the purpose of my visit	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
2. understand announcements made at an airport indicating the change in departure time or gate number of my flight	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
3. read and understand a bus or train timetable	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
4. understand recorded messages on the phone stating business hours or a new telephone number of an office	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5

Attending a meeting / conference

Business trip

Check a box next to the statement if you have done/ are currently doing the activity. Whether you have experience or not, circle one number that is most true for you.	Have done	Difficulty level				
		Not at all	With a great deal of difficulty	With some difficulty	With very little difficulty	Easily
5. request information about business hours of a restaurant or make dinner reservations	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
6. explain trouble about my flight or hotel accommodation and make a request to settle the problem	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
7. explain the purpose of my visit to a receptionist of a company and ask for a person in charge of the specific matter	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
8. read and understand a restaurant menu	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
9. understand a weather report on the radio	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
10. read and roughly understand news articles in an international English newspaper such as the International Herald Tribune or the Financial Times without using a dictionary	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
11. watch a news program on TV such as CNN and roughly understand what is happening in the world	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5

Business trip

付録2:自己評価アンケート(日本語)

職場で行ったことがある・現在行っている項目は、 <input type="checkbox"/> にチェックをつけてください。 また、あなたに最も当てはまると思われる番号1-5の1つにマルをつけてください。	経験有	全くできない ほんの少ししかできない 難しいがなんとかなんとかできる ほぼできる 問題なくできる
--	------------	--

A. 来客対応 — 英語で

来客対応									
	1. 相手の名前・用件を聞き担当者にやり次ぐことができる	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5		
	2. 挨拶・自己紹介ができる	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5		
	3. 政治・経済など時事問題について知っていることを話すことができる	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5		
	4. 自分の経歴・現在の仕事の内容について述べられる	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5		
	5. 自分の職場を一通り（どこに何があるか程度）案内できる	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5		
	6. 空港・ホテルまで出迎えに行き日常的な会話をしながら、会社まで案内できる	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5		
	7. ゲストの希望を正確に把握し、対応できる （例 ホテルの予約、フライト確認、観光、食事などの案内）	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5		
	8. 独特の意味を持つ日本語や日本文化、考え方を説明できる	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5		
	9. 15人程度の歓迎会・送別会などでホスト・ゲストとして2、3分のスピーチがその場で、できる	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5		

B. 日常業務関連 — 英語で、

日常業務関連									
	1. 日常業務についてEメール・メモによって連絡、確認ができる （例：スケジュール確認）	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5		
	2. 一般的なオフィス機器のマニュアル（英語）が読める	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5		
	3. 自分の業務・専門に関する文書を、辞書をほとんど使わず読める	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5		

職場で行ったことがある・現在行っている項目は、 <input type="checkbox"/> にチェックをつけてください。 また、あなたに最も当てはまると思われる番号1-5の1つにマルをつけてください。		経験有	全くできない	ほんの少ししか できない	難しいがなんとか なんとかできる	ほぼできる	問題なく できる
日 常 業 務 関 連	4. 会議の案内等の社内文書・通達を、辞書をほとんど使わず理解できる	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
	5. 取引上の契約書を、辞書をあまり使わず読んで理解できる	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
	6. 外国人の同僚や新人に仕事の手順を口頭で説明できる	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
	7. 関連資料（英語）をインターネットなどで探し、必要な情報・資料を収集できる	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
	8. a. 集めた英文の資料を日本語で（文書に）まとめられる（辞書可） b. 集めた英文の資料を英語で（文書に）まとめられる（辞書可）	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
	9. 自分の日常業務について外国人の同僚が話す英語を、聞いて理解できる	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
	10. 上司または同僚と、顧客サービスや製品の質の向上について話し合える	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
	11. 顧客に対するお礼の手紙が書ける（辞書可）	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
	12. 取引先からのお礼の手紙が読んで理解できる（辞書可）	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
	13. 潜在的な顧客に対し、自社製品やサービスを売り込む手紙が書ける（辞書可）	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
	14. プロジェクトや業務の進行状況に関する報告書が書ける（辞書可）	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
	15. 自分の業務に関する企画書・提案書が作成できる（辞書可）	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
	16. 外部機関に対する申請書が作成できる（辞書可）	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
	17. 外部機関に対し、必要な情報を得るためにEメール・文書で問い合わせができる （辞書可）	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
	18. 自社製品やサービスに関する仕様書、説明書が書ける（辞書可）	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5
	19. 自分の関連分野で面接を行い、資格・経験などを尋ねることができる	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	5

<p>職場で行ったことがある・現在行っている項目は、□にチェックをつけてください。 また、あなたに最も当てはまると思われる番号1-5の1つにマルをつけてください。</p>	経験有	
---	------------	--

C. 電話で - 英語で

	□	1	2	3	4	5
1. a. 相手の名前・用件を聞き担当者に取り次ぐことができる						
b. 自分の名前・用件をいい、担当者に取り次いでもらうことができる						
2. a. 担当者が不在の時に伝言を受け取ることができる						
b. 伝言を残し折り返し電話を頼むことができる						
3. アボを取る／アボの変更・取り消しをすることができる						
4. 会社までの道順を教えることができる						
5. 営業時間・取り扱っている商品・サービスの有無などの問い合わせに答えられる						
6. 見知らぬ相手に自社商品・サービスを売り込むためのアボを取ることができる						

D. 発注・支払い・クレーム - 英語で、

	□	1	2	3	4	5
1. a. <u>電話</u> で在庫の確認、見積書の送付依頼、商品の注文などができる						
b. <u>Eメール・文書</u> で在庫の確認、見積書の送付依頼、商品の注文ができる						
2. a. 商品・サービスの間違い・破損・未払いなどに対して <u>電話</u> でクレームがつけられる						
b. 商品・サービスの間違い・破損・未払いなどに対して <u>Eメール・文書</u> でクレームがつけられる						

付録3: アンケート質問項目

項目名	備考
所属団体名	
受験No.	
団体コード	弊社で設定する特定コード
試験日 (FROM)	西暦YYYYMMDD
試験日 (TO)	西暦YYYYMMDD
年齢	採点時計算
生年月日	西暦YYYYMMDD
性別	1=男性/2=女性/ブランク=無回答
学歴	1桁目1=小学校/2=中学校/3=高校/4=高専/5=短期大学/6=大学/7=大学院/8=語学校/9=専門学校/ブランク=無回答 2桁目1=1年在学/2=2年在学/3=3年在学/4=4年在学/5=5年在学/6=6年在学/7=卒業/8=中退(*1桁のみ=どちらか一方のみマーク*ブランク=無回答)
職業	1=農水産/2=鉱業/3=建設/4=食品/5=繊維紙/6=化学/7=薬品/8=石油/9=窯業/10=鉄鋼/11=非鉄/12=機械/13=電機/14=造船/15=運輸/16=精密/17=他製造/18=商社/19=小売り/20=金融/21=証保/22=不動産/23=運輸/24=電力/25=マスコミ/26=サービス/27=政府/28=都道府県/29=市町村/30=公共/31=民間/32=国際/33=小学校/34=中学校/35=高校/36=短大/37=大学/38=語学校/39=各種/40=自営/41=自由業/42=学生/43=主婦/44=無職/45=その他/47=高専
会社規模	1=10,000人以上/2=5,000人以上/3=2,000人以上/4=1,000人以上/5=500人以上/6=200人以上/7=100人以上/8=100人未満/ブランク=無回答
職種	01=経営/02=総務/03=経理/04=人事/05=企画/06=海外/07=購買/08=業務/09=営業/10=技術/11=製造/12=研究/13=現業/ブランク=無回答
役職	01=役員/02=部長/03=課長/04=係長/05=社員/ブランク=無回答
回答1	現在、業務上及び日常生活において英文を書いたり読んだり、あるいは英語で意思疎通をはかる必要がありますか？ 1=YES/2=NO/ブランク=無回答
回答2	主として英語を話す生活を送りながら海外に通算6ヵ月以上滞在したことがありますか？ 1=YES/2=NO/ブランク=無回答
回答3	入社歴について該当するものにマークして下さい。 1=新入社員/2=入社後2～5年目/3=入社後6～10年目/4=入社後11年目以上/5=内定者/ブランク=無回答
回答4	これまでに受験されたTOEICの回数について該当する部分にマークして下さい。 1=今初めて/2=これまで1回/3=これまで2回/4=これまで3回/ブランク=無回答
質問1	前職も含めたあなたの就労年数は A=1年未満/B=1年以上3年未満/C=3年以上5年未満/D=5年以上10年未満/E=10年以上
質問2	前職も含めて英語が必要だった年数は A=無/B=1年未満/C=1年以上3年未満/D=3年以上5年未満/E=5年以上
質問3	前職も含めて海外駐在した年数は A=無/B=1年未満/C=1年以上3年未満/D=3年以上5年未満/E=5年以上
質問4	前職も含めて海外出張の経験は A=無/B=頻繁に行く/C=時々行く/D=めったに行かない/E=以前は行ったが今は行かない

付録4 平均値、標準偏差、TOEICスコアと自己評価の相関

A. 来客対応 — 英語で		平均値	標準偏差	r
L	A-1: 相手の名前・用件を聞き担当者に取次ぐことができる	2.45	1.13	0.62
S	A-2: 挨拶・自己紹介ができる	2.86	1.13	0.55
S	A-3: 政治・経済など時事問題について知っていることを話すことができる	1.61	0.89	0.59
S	A-4: 自分の経歴・現在の仕事の内容について述べられる	2.15	1.10	0.65
S	A-5: 自分の職場を一通り(どこに何があるか程度)案内できる	2.11	1.12	0.62
I	A-6: 空港・ホテルまで出迎えに行き日常的な会話をしながら、会社まで案内できる	1.93	1.11	0.64
I	A-7: ゲストの希望を正確に把握し、対応できる(例 ホテルの予約、フライト確認、観光、食事などの案内)	1.82	1.05	0.62
S	A-8: 独特の意味を持つ日本語や日本文化、考え方を説明できる	1.59	0.87	0.56
S	A-9: 15人程度の歓迎会・送別会などでホスト・ゲストとして2、3分のスピーチができる	1.57	0.90	0.52
B. 日常業務関連 — 英語で、				
W	B-1: 日常業務についてEメール・メモによって連絡、確認ができる(例:スケジュール確認)	2.47	1.23	0.67
R	B-2: 一般的なオフィス機器のマニュアル(英語)が読める	2.52	1.14	0.64
R	B-3: 自分の業務・専門に関する文書を、辞書をほとんど使わず読める	2.04	1.05	0.63
R	B-4: 会議の案内等の社内文書・通達を、辞書をほとんど使わず理解できる	2.04	1.07	0.67
R	B-5: 取引上の契約書を、辞書をあまり使わず読んで理解できる	1.78	0.94	0.57
S	B-6: 外国人の同僚や新人に仕事の手順を口頭で説明できる	1.81	0.99	0.59
R	B-7: 関連資料(英語)をインターネットなどで探し、必要な情報・資料を収集できる	2.28	1.16	0.61
R	B-8: a. 集めた英文の資料を日本語で(文書に)まとめられる(辞書可)	2.53	1.16	0.63
W	B-8: b. 集めた英文の資料を英語で(文書に)まとめられる(辞書可)	1.96	1.04	0.61
L	B-9: 自分の日常業務について外国人の同僚が話す英語を、聞いて理解できる	2.02	1.03	0.64
I	B-10: 上司または同僚と、顧客サービスや製品の質の向上について話し合える	1.65	0.93	0.57
W	B-11: 顧客に対するお礼の手紙が書ける(辞書可)	2.10	1.06	0.60
R	B-12: 取引先からのお礼の手紙が読んで理解できる(辞書可)	2.49	1.14	0.65
W	B-13: 潜在的な顧客に対し、自社製品やサービスを売り込む手紙が書ける(辞書可)	1.79	0.95	0.54
W	B-14: プロジェクトや業務の進行状況に関する報告書が書ける(辞書可)	1.91	1.02	0.60
W	B-15: 自分の業務に関する企画書・提案書が作成できる(辞書可)	1.84	0.99	0.57
W	B-16: 外部機関に対する申請書が作成できる(辞書可)	1.73	0.97	0.53
W	B-17: 外部機関に対し、必要な情報を得るためにEメール・文書で問い合わせができる(辞書可)	2.09	1.11	0.63

		平均値	標準偏差	r
W	B-18: 自社製品やサービスに関する仕様書、説明書が書ける(辞書可)	1.85	0.98	0.54
I	B-19: 自分の関連分野で面接を行い、資格・経験などを尋ねることができる	1.60	0.89	0.53
C. 電話で — 英語で、				
L	C-1: a. 相手の名前・用件を聞き担当者に取次ぐことができる	2.30	1.12	0.62
S	C-1: b. 自分の名前・用件をいい、担当者に取り次いでもらうことができる	2.32	1.15	0.63
L	C-2: a. 担当者が不在の時に伝言を受け取ることができる	2.03	1.12	0.64
S	C-2: b. 伝言を残し折り返し電話を頼むことができる	2.05	1.15	0.64
S	C-3: アポを取る／アポの変更・取り消しをすることができる	1.92	1.10	0.64
S	C-4: 会社までの道順を教えることができる	1.94	1.06	0.60
I	C-5: 営業時間・取り扱っている商品・サービスの有無などの問い合わせに答えられる	1.71	0.98	0.60
I	C-6: 見知らぬ相手に自社商品・サービスを売り込むためのアポを取ることができる	1.55	0.88	0.53
D. 発注・支払い・クレーム — 英語で、				
S	D-1: a. 電話で在庫の確認、見積書の送付依頼、商品の注文などができる	1.62	0.93	0.57
W	D-1: b. Eメール・文書で在庫の確認、見積書の送付依頼、商品の注文ができる	2.01	1.12	0.63
I	D-2: a. 商品・サービスの間違い・破損・未払いなどに対して電話でクレームがつけられる	1.58	0.91	0.56
W	D-2: b. 商品・サービスの間違い・破損・未払いなどに対してEメール・文書でクレームがつけられる	1.95	1.10	0.63
E. 商談・プレゼンテーション (相手が1-3人の場合) — 英語で、				
S	E-1: 資料をみながら、会社紹介ができる(例:沿革・中心事業・売上高・設立・規模)	1.79	1.03	0.60
S	E-2: 準備した資料を用い、品質・経済性・値段などを他社製品・サービスと比較しながら製品・サービスを詳しく説明し、売り込むことができる	1.64	0.95	0.56
S	E-3: 準備した上で、新しい企画や商品について20-30分のプレゼンテーションが行える	1.69	1.00	0.57
R	E-4: プレゼンテーション用の配布資料を、辞書をあまり使わず読める	1.88	1.05	0.65
S	E-5: プレゼンテーションを聞いた後、疑問点・問題点についてその場で質問できる	1.65	0.95	0.60
I	E-6: 価格の交渉ができる(例:価格の説明／値引き交渉／支払い条件の取り決めなど)	1.50	0.86	0.50
F. 自分の専門業務に関連した内容の会議・講演で — 英語で、				
L	F-1: 自分の業務・専門に関連する議論が、聞いて理解できる	1.92	1.02	0.63
S	F-2: 事前にまとめた自分の意見を、口頭で伝えることができる	1.96	1.08	0.64
I	F-3: 質疑がその場でできる・質問に即座に答えることができる	1.64	0.93	0.59
I	F-4: 議論に自ら積極的に参加することができる	1.60	0.90	0.55
I	F-5: 相手の意見の問題点をあげ、反論することができる	1.56	0.89	0.54

		平均値	標準偏差	<i>r</i>
W	F-6: 会議で話し合われた要点をまとめた報告書が書ける	1.68	0.96	0.60
R	F-7: 会議・講演のレジユメ(要約)を、辞書をほとんど使わず読んで大体理解できる	1.81	1.03	0.64
G. 出張・訪問・その他 — 英語で、				
L	G-1: 入国管理官に、滞在場所、期間、旅の目的を英語で聞かれた時、質問が理解できる	2.52	1.22	0.62
L	G-2: 飛行場、駅で、発着時刻、場所の変更のアナウンスが聞き取れる	2.34	1.11	0.59
R	G-3: 電車やバスの時刻表を見て理解できる	2.46	1.17	0.61
L	G-4: 電話の録音テープを聞き、営業時間、変更になった電話番号が聞き取れる	2.08	1.08	0.62
I	G-5: 電話で飛行機の時刻やレストランの営業時間の問い合わせ、予約ができる	1.98	1.12	0.62
I	G-6: フライト・宿に関するトラブルを係員に説明し、自分の要求を伝えることができる	1.98	1.08	0.62
S	G-7: 訪問先で用件を伝え担当者に取り次いでもらうことかできる	1.99	1.10	0.64
R	G-8: レストランのメニューが読める	2.35	1.09	0.58
L	G-9: ラジオの天気予報が、聞いて理解できる	1.90	0.99	0.58
R	G-10: (International Herald Tribune, Financial Timesなどの)国際英字新聞の記事を、辞書を使わず大まかに理解できる	1.78	0.93	0.60
L	G-11: CNNなどのニュース番組を聞き、どこで何が起きているかがだいたいわかる	1.89	0.95	0.58

L=リスニング S=スピーキング R=リーディング W=ライティング I=コミュニケーション
r はTOEICスコアと自己評価の相関を表す

付録 5: 職務と習熟度に関するリスト

スキル	項目									
	195 以下	200- 295	300- 395	400- 495	500- 595	600- 695	700- 795	800- 895	900- 995	
A. 来客対応 — 英語で、										
L	1	1	1	1	2	2	3	3	3	3
S	1	1	1	2	2	3	3	3	3	3
S	1	1	1	1	1	1	2	2	3	3
S	1	1	1	1	1	2	2	3	3	3
S	1	1	1	1	1	2	2	3	3	3
I	1	1	1	1	1	2	2	3	3	3
I	1	1	1	1	1	2	2	3	3	3
S	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2
S	1	1	1	1	1	1	1	1	2	3
B. 日常業務関連 — 英語で、										
W	1	1	1	1	2	2	3	3	3	3
R	1	1	1	2	2	2	3	3	3	3
R	1	1	1	1	1	2	2	3	3	3
R	1	1	1	1	1	2	2	3	3	3
R	1	1	1	1	1	2	2	3	3	3
R	1	1	1	1	1	2	2	3	3	3
S	1	1	1	1	1	1	2	2	3	3
R	1	1	1	1	2	2	3	3	3	3
R	1	1	1	1	1	2	2	3	3	3
W	1	1	1	1	1	2	2	3	3	3
L	1	1	1	1	1	2	2	3	3	3
I	1	1	1	1	1	1	2	2	3	3
W	1	1	1	1	1	2	2	3	3	3
R	1	1	1	2	2	2	3	3	3	3
W	1	1	1	1	1	1	2	2	3	3
W	1	1	1	1	1	1	2	2	3	3
W	1	1	1	1	1	1	2	2	3	3
W	1	1	1	1	1	1	2	2	3	3
W	1	1	1	1	1	1	2	2	3	3
I	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2
I	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2
C. 電話で — 英語で、										
L	1	1	1	1	2	2	2	3	3	3
S	1	1	1	1	2	2	3	3	3	3
L	1	1	1	1	1	2	2	3	3	3
S	1	1	1	1	1	2	2	3	3	3
S	1	1	1	1	1	2	2	3	3	3
S	1	1	1	1	1	2	2	3	3	3
I	1	1	1	1	1	2	2	3	3	3
I	1	1	1	1	1	1	2	2	3	3

